

NPO 法人ハートセービングプロジェクト

# 令和7年度年次レポート

第18期年次総会資料

## 議事

- 議題 1 令和7年度事業報告
- 議題 2 令和7年度活動計算書報告
- 議題 3 令和8年度事業計画
- 議題 4 令和8年度活動予算

令和8年4月12日（日曜日）午後12時から13時

会場 NPO法人ハートセービングプロジェクト本社

住所 東京都世田谷区三宿2-13-9-102

（オンラインアプリケーション「Zoom」を利用したオンライン総会となります）



# 2025年の回顧と2026年への展望

理事長  
富田 英

2025年度は、5月、8月、11月の計3回、モンゴル国立母子保健センターへのカテーテル治療支援、5月バヤウルギー県、8月ウムヌゴビ県と2回の地方心臓検診を行いました。また、10月には麻酔科のAriuntungalag先生が日本小児麻酔学会(徳島市)で発表するとともに愛媛大学で研修され、1月には小児循環器科Batsuuri先生がJCIC学会(川崎市)で口演されました。

今年度は年間の活動目標として下記を掲げていました。

検診については日馬富士学園をモデルとして、1に類する心エコーのスクリーニングを行ったが、全国展開にはまだハードルが高そうです。2については、モンゴル側医師の関心も高く達成されつつあるように思います。一方、カテについては、デバイス供給体制が依然ボトルネックであり、また、機器トラブルのため十分な活動ができないといった事態もありましたが、両者とも問題のなかった11月は実働1.5日で14例のカテーテルを行うことができました。一方で、前後のミーティングには十分な時間をとることができず、また、画像保存も十分ではないなどの課題が残りました。とはいえ、モンゴル側若手医師のmotivationには間覚ましいものがあり、次年度の課題解決にむけ、会員の皆様の一層のご協力をお願いします。

母子センターには小児開心術のためのOR、術後ICUがオープンし、開心術が開始されるようです。手術を前提とした診断カテーテル、外科治療と連携したカテーテル治療など、今までとは違った視点での指導も必要になるものと考えています。この意味でも、ミーティングの重要度が増してゆくものと思われまます。

## ● カテ班

安全なカテ

基本動作を確実に習得させる

カテ前後(前日カテ終了後または当日朝)のカンファレンスを必ず行うことを前提にカテスケジュールを作成。初日エコー終了後1例くらい教科書的症例のカテ1例(本活動の準備状況確認の意味も含めて)。カテ終了後 カテを施行した症例および翌日のカテ症例についてカンファレンス。

カテ日は原則 カテ後症例 翌日のカテ症例について毎日カンファレンス→18時にはカテを終了する。

ASDデバイス閉鎖

キー画像の確実な保存

TEE、シネともに「ここは大事、保存」と声かけ。

カンファレンス時に画像を呼び出させ、保存が必要と指示した理由を明示し理解してもらう。

カテプランの作成

事前ミーティングで各症例のモンゴル側責任者、日本側責任者を決定。前日までに(簡単でよいので)カテプランを作成する。可能なら年齢、性別、身長、体重、診断、経過、心電図、エコーの基本情報と、穿刺部位とシースサイズ、使用するカテ、デバイス、予想される合併症とその対処。

これを前日のカンファレンスで提示するのはモンゴルの先生に依頼する。

カテレポートの作成

モンゴル側第一術者、日本側若手の責任において、HSPで使用している1枚紙のレポートをカテ翌日までに確実に作成。合併症症例や指定した高難度症例については圧測定結果やカテ結果、合併症、失敗の理由や次回クリアすべき問題点をパワーポイントで簡潔に作成する。カテ翌日のカンファレンスで提示する。

モンゴル側第一術者、日本側若手のアサインメントは事前ミーティングの前までに行う

## ● 検診班

心電図

日本方式の新小学1年生心電図検診が、全国で行われているならば、検診予定地域の全心電図を渡航前に確認。日本の二次検診対象者に相当する者を抽出し、検診時に呼び出して診察、心エコーを行う。

エコー検査

一列は日本側医師とモンゴル側医師とで実施。

エコーの主体はモンゴル側医師とし、可能なら二人羽織形式で指導。

この列の検査が遅くなるのは許容。

別の列で異常所見があれば、都度モンゴル側医師をその列に呼んで指導。

先の見えない円安、世界的な自国第一主義の台頭は、国際的な医療支援にとっては逆風になっており、HSPも財政基盤の強化が大きな課題です。事務局の多大な努力で今までも取り組んできたことですが、医療支援活動(治療した個別の患者さんの成長、技術移転の成果など)の見える化、海外での医療支援活動が国内の小児循環器診療に与えるインパクトのプロパガンダなどがカギと思います。会員各位にはモンゴル国における活動ばかりではなく、国内におけるこれらの活動にもご支援をお願いする場面があるかもしれません。その節にはご協力のほどよろしく申し上げます。

令和8年3月31日

# 令和7年度実施の各事業の内容と成果

## 1. 渡航治療支援事業

### 5月モンゴル渡航治療支援事業

日程＝2025年4月26日(土)～5月4日(日) 渡航人員＝小児循環器科医師9名、麻酔科医師1名、医学生2名、看護師1名、事務局1名 合計14名 構成＝バヤンウルギー地方検診班5名、カテーテル班9名の合同チーム

#### バヤンウルギー県地方検診

メンバー＝小児循環器科医師4名(羽根田紀幸永世理事長、矢内俊先生、小野頼母先生、田部有香先生)、ナース1名(小枝紗知子さん)  
スケジュール＝4月29日(火)成田→ウランバートル 30日(水)ウランバートル→バヤンウルギー 午後から18時まで検診 5月1日(木)、2日(金)の両日検診 5月3日(金)午前中に国内線でウランバートルへ 5月4日(日)帰国

成果＝合計検診数286名(初日95名、2日目107名、3日目84名)、うち母子センターへ紹介が14名、現地病院でフォローが72名

活動概況＝バヤンウルギーは2013年と2018年に訪問しており今回で3回目です。モンゴルの西の端のアルタイ山脈添いにあり、中国・ロシア・カザフスタンの国境に近く、ウランバートルからは1600kmの距離です。モンゴルからの同行者として現地NPO4名(通訳としてウルカさん、ガンバートルさん、事務局としてオユンナさん、ハリウナーさん)、モンゴル国立母子保健センター(以下「NCMCH」)のベフバット医師(循環器科医師2年目)、運転手2名、バヤンウルギー県議秘書1名が加わり計13名で、27日の朝5時にウランバートルホテルを出発し、国内線1時間半のフライトののちウルギー空港に到着。その後、車に乗り換えバヤンウルギー県立中央病院に10時着。病院長にご挨拶をし、昼食をはさんで午後から検診を開始しました。羽根田先生が問診を担当し、日本から持参したポータブルエコー機2台と現地病院のエコー機1台の合計3台を使って日本人医師(①田部先生②矢内先生③小野先生)が3列で検診を実施。この日の検診終了は午後18時でした。NCMCHのベフバット医師は基本、田部先生のラインにつき、所見があれば②③にも参加しました。受付は現地NPOの事務局が担当しましたが、モンゴル語が通じないエリアであるため、現地病院の医師が受付に同席し現地カザフ語の通訳を買って出てくださいました。初日は検診のほか、院内のNICUでの診察の依頼があり、3名の患者さんを診察しました。2日目の検診のあとに初日と2日目のカンファレンスを行いました。



空路1時間半、1600kmを車移動だと18時間かかる



院長(前列右)、羽根田紀幸永世理事長(前列中央)



受付業務には現地病院の医師のかたがたも協力



広めの診察室でお互いの行き来がしやすい



検診中の羽根田先生



検診中の田部先生(前中央)とベフバット先生(左)



検診を待つお子さんと親御さん



この検診活動に参加されたスタッフ集合  
(現地病院、現地NPO、日本から参加のスタッフ)

3日目の朝に現地を出発してウランバートルへ戻り、その翌日帰国しました。今回、週2便の国内線フライトに合わせた活動スケジュールだったので、時間的にゆとりがあり、検診そのものやカンファレンス、現地病院への引き継ぎに十分な時間をかけて行うことができました。

## 5月モンゴル渡航治療支援事業（首都でのカテーテル治療支援教育活動）

メンバー＝小児循環器医師5名（榎垣高史副理事長、小澤晃先生、中川直美先生、宮田豊寿先生、林田由伽先生）、麻酔科医師1名（藤井園子理事）、医学生2名、事務局1名（トーヤ） スケジュール＝4月26日（土）成田→ウランバートル 27日（日）から30日（水）までNCMCHにて心エコー検診と心カテーテル治療（28日は朝～午後1時まで新モンゴル日馬富士学園にて心エコー検診）、5月1日（木）第一陣帰国、5月2日（金）第二陣帰国 成果＝エコースクリーニング106例、カテーテル件数11うち治療カテーテル9（動脈管開存（以下「PDA」）5、心房中隔欠損（以下「ASD」）4）、診断カテーテル2、経食道心エコー1。



榎垣先生を中心に日本・モンゴル合同チーム



麻酔の藤井園子先生（中央）、事務局トーヤ（左）とNCMCHの麻酔医スタッフ（右2名）

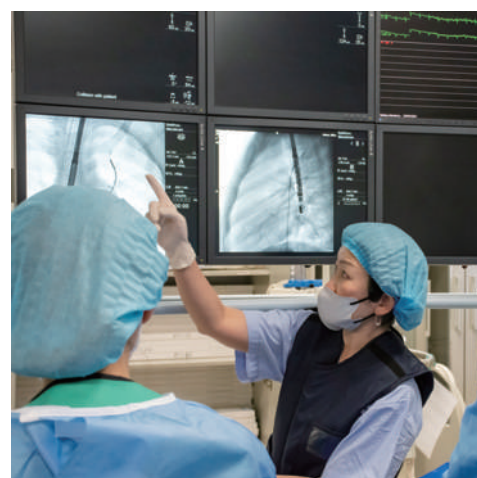
活動概況＝（27日 活動初日）朝8時から午後2時 心エコースクリーニング。ちょうどNCMCHにモンゴル全国の地方病院からエコー研修のため医師およそ30名が見学に来られていたので、そのなかの小児循環器医と成人循環器医の先生がたには直接エコーをお見せしながら指導させていただきました。これはモンゴルの地方病院でもスクリーニングができるようにする取り組みかと思われます。直接指導させていただいた地方病院の先生がたからたくさんの質問も飛び交い熱意を感じました。午後の心カテーテル治療はPDA1例の治療カテ、発熱のための中止が1。

（28日 2日目）終日カテ。治療カテ4（PDA2、ASD2）、診断カテ1（フォンタン術後）。

（29日 3日目）午前中、新モンゴル日馬富士学園を訪問。今年の1、2月に全国規模で行われた就学前児童心電図検診で再検査となった児童28名の二次健診として心エコー検診を行いました。結果は全員が問題なしでした。これは再検査の診断設定が成人のものであったためと想定されます。モンゴルでの児童心電図検査ははじまったばかりですので、これから精度が上がっていくものと思われます。検診後は、学園のカフェテリアで生徒さんがたとともに昼食を取りました。午後はNCMCHに戻って治療カテ3例（ASD2、PDA1）。

（30日 4日目）治療カテ1例、診断カテ1例。経食道心エコーの方はシビアな状況のため早めの手術をおすすめしました。

今回のポイント＝①NCMCHの在庫の治療デバイスはニーズと合っていないでした。このことが渡航直前にわかり、あらかじめ日本から持参しましたが、これをすると活動予算が大幅にオーバーしてしまうためNCMCHの責任者のかたには次回までにこの問題を解決していただけるよう強く要望しました。②わたしたちの活動目標に「現地教育」がありますが、教育対象となっている医師がちょうどモンゴルに不在でした。NCMCHにはわたしたちとの取り決めを守ってくれるようこれも強く要望しました。一方で、教育対象となっている先生よりも若い先生がた3名がほぼすべてのカテに入り、終了後の回診にも同行し自ら診察とエコー評価を行うなど、熱意を見せていました。③治療対象の患者さんのうちPDAが減少している印象があります。この理由はふたつ考えられ、ひとつは数年前からモンゴル国内でモンゴル人循環器外科医師が地方を巡回してPDAの外科的治療にあたっているようで、この活動の結果が出ていること、もうひとつは先天性心疾患の診断が下ると公病院以外の病院または海外で自費治療を受けている富裕層の患者さんが一定数出てきたということです。



中川直美先生（右）



新モンゴル日馬富士学園にて



治療を受けた患者さんと集合

（下）榎垣先生（左）、回診にて患者さん、親御さん、学生ボランティアの久保さんとともに



## 8月モンゴル渡航治療支援事業

日程＝2025年8月7日(木)～11日(月) 渡航人員＝小児循環器科医師9名、看護師1名、事務局1名 合計11名

構成＝ウムヌゴビ地方検診班5名、カテーテル班6名の合同チーム

### ウムヌゴビ県地方検診

メンバー＝小児循環器科医師4名(田村真通理事、森雅啓医師、額賀俊介医師、服部苑子医師)、ナース1名(谷口智子理事)

スケジュール＝8月7日(木)成田→ウランバートル 8日(金)ウランバートル→車移動  
560kmでウムヌゴビ県ダランザドガド市昼過ぎ到着。午後から検診開始 9日(土)終日  
検診 10日(日)午前中検診 午後車で移動しウランバートルへ 11日(月)帰国  
成果＝足かけ3日間(実質2日間)164名(初日68名、2日目94名、3日目2名)うち問題なし  
が112名、有疾患とされた患者さんは52名 うちNCMCHへ紹介が26名、ソングト病院で  
フォローが3名、国立第三病院へ紹介が8名(要外科手術)、現地病院がフォローが15名

活動概況＝ウムヌゴビ県には2011年に訪問しており今回で2回目です。モンゴルの南中央部  
ゴビ砂漠の中にあり中国と国境を接しています。恐竜の骨格が数多く発見され、金と銅の鉱  
山や大炭田タバントルゴイがあります。モンゴルからの同行＝現地NPO3名(通訳としてウ  
ルカさん、フレルボルドさん、事務局としてミシェールさん)、NCMCHのボロル医師、運転手1  
名の5名を加え、総勢10名は朝6時にウランバートルホテルを出発し、車2台に分乗して  
560kmを走行、午後1時過ぎにダランザドガドに到着。昼食後ウムヌゴビ県立シャラヴ記念  
地域医療センターに入り、病院関係者の方々にご挨拶後、検診を開始しました。すでに診察室  
を3つ用意していただいていたのですが、エコー検診中にスタッフが互いに行き来できる態勢に  
するため大部屋をリクエストし、講堂をお借りすることになりました。

この病院は広い敷地のなかに複数の附属施設を備えた4階建てのビルで、ドクターの数は小児科医4名、成人循環器科2名が勤務してい  
ます。うち成人循環器科の2名は5月にNCMCHに研修に来てエコーの取り方を学んだばかりでしたので、今回もたいへん熱心に質問されて  
いました。NCMCHのボロル医師は小児循環器科に配属されたばかりの若手ですが、この地方検診を通じてたいへん多くのことを学ばれたよ  
うです。2025年は5月に続き8月も地方検診先での滞在日数を2泊3日としたことで、現地での検診活動のやり方を大きく変えることができ  
ています。これまで時間内にすべての患者さんの心エコーを終えるため、日本から参加の医師のみがエコーを行っていましたが、今年は時間的に余  
裕ができ、現地の医師、NCMCHから参加の医師に実際にエコーをあててもらいながら指導することができました。活動終了後にカンファレンス  
でもしっかりレクチャーと引き継ぎを行うことができました。今後もできるだけモンゴルの医師に心エコーをあててもらいたいと考えています。



ウムヌゴビ県立シャラヴ記念地域医療センター



到着したときすでに大勢の患者さん家族が待機



検診中のお子さんをあやす谷口ナース



(左写真)  
田村先生の心エコー画像を熱心  
に見入るボロル医師(白衣)、現地  
病院医師(後列中央2名)と初参加  
の服部医師(右)。  
最も左は患者さんのお母さん



検診中の初参加の額賀俊介先生(中央)



現地の成人循環器科の医師(左)、ボロル医師  
(中央)と森雅啓医師(左)



歓待してくださったセンターの方々と共に

## 8月モンゴル渡航治療支援事業（首都でのカテーテル治療支援教育活動）

メンバー=小児循環器医師5名(片岡功一理事、喜瀬広亮先生、松尾久実代先生、柏木孝介先生、秋好端希先生)、事務局1名(トーヤ)  
 スケジュール=8月7日(木)第一陣 8月8日(金)第二陣 成田→ウランバートル 9日(土)午前～夕方 心エコー検診 午後心カテーテル治療スタート 10日(日)終日心カテーテル治療 11日(月)朝ホテル出発 ウランバートル→成田にて解散  
 成果=心エコー検診 112人 治療カテーテル9例、うちPDA4名、肺動脈弁狭窄(以下「PS」)1名、ASD4名、経食道心エコー(以下「TEE」)のみ1例、中止1例

活動概況=(9日 活動初日)朝8時からお集まりいただいた患者さんの心エコースクリーニングを行いました。人数がとても多く、昼過ぎも引き続きエコースクリーニングを行い、並行してカテをスタートしました。エコーを受けたお子さんには、エドワーズライフサイエンス社から提供いただいた折り紙をプレゼントしました。午後の治療カテーテル5例(PDA4例、PS1例)。5月に揃っていなかったデバイスですが、わたしたち到着の前日にNCMCHに入荷されたそうです。麻酔はNCMCHの麻酔医2名体制の予定が急きょ1名体制となりました。カテ治療はNCMCHの先生がたが主体となって行いました。5例終了時には夜中になっていたため、この日はカンファレンスを行うことができませんでした。(10日2日目)治療カテ4例(ASD4)、TEEのみが1。発熱のため中止が1。朝からシネアンギオ装置にトラブルが発生し、正面しか透視できず、また操作室のシステムも立ち上がりず計測ができませんでした。たびたび再起動をし、なんとかしのいでこの日の予定をこなしました。TEEは初期評価と治療中は日本のメンバーが担当、それ以外はNCMCHのホンゴル先生が行いました。カテ終了後は英語でカンファレンスを行いました。モンゴルの先生から積極的に質疑が出ていました。

今回のポイント=①病院の在庫の治療デバイスはぎりぎりわたしたち到着に間に合ったものの届いたものにはペアで使用するものの片方がない、あるいは同じものがふたつになっているといったことがあり、まだまだデバイスの発注がうまくいっていないようでした。②シネアンギオ装置のトラブルは関係者一同にとってたいへんな問題です。聞くと本来定期メンテナンスが必要な機械であるのにメンテナンスを一切できていないようで、今後は定期メンテを必ずするように申し入れをしました。



9日朝NCMCH前にて。左から喜瀬先生、秋好先生、柏木先生、松尾先生、片岡先生



術後に患者さんご家族に説明をする松尾先生(左中央)とホンゴル先生(手前)、通訳する事務局トーヤ(左から3番目)と説明を聞くご家族(右の3名)



左からNCMCHの麻酔医、片岡先生、ホンゴル先生、バトウンドラハ先生、NCMCHの看護師2名



第一術者、第二術者共にモンゴル医師(左=バトウンドラハ先生、右=ホンゴル先生)



患者さんから絵のプレゼントをいただく松尾先生



患者さんから絵のプレゼントをいただく秋好先生



患者さんから絵のプレゼントをいただく喜瀬先生



8月に治療を受けた患者さんとスタッフ集合

本年度のモンゴル渡航治療支援活動に参加された方々からいただきましたレポートをご紹介します。

### バヤンウルギー地方検診（部分抜粋。全文は公式HPに掲載）

昭和医科大学 小児循環器・成人先天性心疾患センター 矢内 俊

いままでの地方検診では、日本の感覚ではかなりの遠隔地でも自動車での移動が多かったのですが、今回は国内線での移動と聞いて、気合いの入った遠さだと思っていた。現地入りの翌日は早朝の飛行機でバヤンウルギー県に向かったが、ウランバートルからは約1300キロも離れており、早速モンゴルの広さを実感した。到着後は県立中央病院に早速お邪魔し、院長先生と意見交換の機会をいただいた。聞けば、バヤンウルギー県はウランバートルから遠いこともあり、病院へのアクセスが限られているとのこと、こういった格差はどこにでもあるものだった。

今回は初日から未診断のVSD（心室中隔欠損）やASD（心房中隔欠損）の患者さんがちらほらみられたのは、やはり居住地域による医療アクセスへの差を感じずにはいられなかった。結局、総勢286人の患者さんが来訪され、治療や侵襲的評価適応のありそうな患者さんが14人も見つかった。特にASDは14人中9人を占め、そのほとんどは（日本での経験では）デバイス閉鎖が期待できそうだった。9人中5人は10歳代の患者さんであり、身体負荷が飛躍的に高まる前に治療への道筋を提示できたことは、とても喜ばしかった。

同行してくれた母子センターの先生、現地の先生方にも内容とフォローアップ、または治療の必要性が理解できるようにカンファレンスの進行には心を砕いた。3日間を通し、十分に情報共有を図ることができたのではないかと思われた。この検診で見つかった治療や侵襲的評価適応のありそうな患者さん14人すべてを確実に治療トラックに乗せ、フォローアップを難しいかもしれないが、一人でも多くの患者さんに治療を受けてもらい、この地域の健康レベルが底上げされることができれば、とても嬉しく思う。

### ハートセービングプロジェクトの活動に参加して 秋田大学医学部附属病院小児科 服部 苑子

田村真通先生にご紹介いただき、初めて参加させていただきました。このような国際貢献のプロジェクトへの参加自体初めてであり、非常に貴重な経験となりました。

検診班では3日間で164人の患者の診察、心エコーを行いました。正常な症例から、カテーテルや日本では手術を検討するような症例まで様々な症例をみせていただき、非常に学びの多い時間でした。上級医の先生方が、手が空いた際に心エコーを手取り足取りご指導して下さり、大変勉強になりました。

今回の検診業務を通じて、世界貢献について深く考える機会となりました。限られた医療資源の中でできる最大限の医療を提供することは、自身の経験や知識のスキルアップに加え、現地の医師との協力、言語の壁をクリアすること、患者さんの生活事情やモンゴルの医療体制を理解し教育することが必要と思いました。検診班で一緒したモンゴル医師のボロル先生は私と同年ながら、中央病院へ患者をつなぐ重要な役割を担い、エコーや日本の医療について積極的に学ぶ姿勢に刺激を受けました。

現地の子供たちが、私のつたないモンゴル語の挨拶に返答し笑顔を見せてくれたこと、近づいてきてくれて私の手をつないでくれた光景は、ずっと忘れられない思い出です。

現地スタッフの方々は通訳やすべてのスケジュール調整に加え、我々がモンゴルについてもっと知ることができるようサポートして下さり、献身的な姿に感銘を受けました。

私は現在秋田大学で小児科後期研修を行っています。今回は全国各地から集まった、錚々たる先生方とお話できる機会となり、後期研修の先の進路や、国内留学のお話も伺うことができ、自身の将来展望についても世界が広がり、非常にありがたかったです。今後国内外問わず研鑽を積み、成長しながらまたこのプロジェクトに参加し、こどもたちのために還元できるよう精進したいと思います。この度は貴重な機会をいただきましてありがとうございました。またいつでも参加させていただきたいと思いますので今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



(上)バヤンウルギー県立病院で検診中の矢内俊先生

### モンゴル渡航にあたり

東部島根医療福祉センター 田部 有香

今回久しぶりにハートセービングプロジェクトの活動に参加させていただきました。前は12年前にウランバートルでカテ班として、今回はバヤンウルギーで健診班としての参加になりました。

3日間で計286人のエコー健診を滞りなく終了することが出来たのは、関係する各部署の準備が十分になされていたこと、また一緒に活動するメンバーに恵まれたためと思います。

温かく向かい入れてくださったモンゴルの方々に、  
Баярлалаа, сайхан байсан!

そしてカザフの方々にСізге үлкен рахмет, сіздің қолдауыңыз біз үшін өте құнды!



NCMCHのボロル医師に指導をする森先生

一方、手術が実施可能な先天性心疾患に限られているため、複雑な症例(ccTGA/severe TR、Large VSD/severe PSなど)の治療方針決定に難しさもありましたが、検診終了後に日本チームとモンゴルチームで協議し、方針を確認しました。今回、県立病院のスタッフや患者家族から大変温かく歓迎されました。これまでハートセービングプロジェクト(HSP)が積み重ねてきた活動を通じて、モンゴルの方がHSPを深く信頼してくださっていることを実感しました。私自身、今後もHSPのプロジェクトに参加し、この信頼を保ちながら、モンゴルの子どもたちに少しでも貢献できるよう努めたいと思います。最後に、多くの調整をしてくださったHSPスタッフの皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ウムヌゴビ検診レポート (一部抜粋) 大阪母子医療センター 森 雅啓

今回、私はウムヌゴビ県で行われた小児心臓検診班に同行しました。(中略) 県立病院から参加した成人循環器科医は、1か月間ウランバートルのモンゴル国立母子保健センター(NCMCH)で研修を受けており、先天性心疾患への関心を持つ循環器科医が増えてきているようにも感じました。また、NCMCHから同行した若手小児科医師ボロル先生も心エコーに非常に意欲的で、教育的な時間も十分に確保することができました。



ウムヌゴビの検診会場にて患者さんと森先生

## ウムヌゴビでの活動を終えて 新潟大学医歯学総合病院 額賀 俊介

今回、私はHSPの検診班の一員として、ウムヌゴビ(南ゴビ)地域に赴く機会をいただきました。チームは、リーダーの田村医師をはじめ、大阪府立母子医療センターの森先生、秋田大学の服部先生、札幌医科大学の谷口看護師さん、そして現地から参加して下さったウランバートル母子センター小児科のボロル先生。どの方も人間的な魅力にあふれた方々ばかりで、この仲間と活動を共にできたことはとても幸せでした。

出発前は、活動内容や環境に対する不安もありました。しかし、慣れない現場で最適な健診体制を整えるため、その場その場で互いに知恵を出し合い、力を合わせる事ができました。限られた条件下であっても、チームワークが大きな力を生むことを改めて実感しました。

現地では、日本では標準的に提供される医療が十分に届かない患者さんの現状を目の当たりにしました。large VSDのEisenmenger症候群やccTGAで適切なフォロー先が見つからない患者さんなど、容易ではない症例も少なくありませんでした。それでも、ボロル先生をはじめ、現地の循環器内科の先生方も積極的にエコーに参加され、「患者さんのためにより良い医療を提供したい」という熱意が強く伝わってきました。医療事情や資源は異なっても、患者さんを思う気持ちは世界共通であることを実感しました。

また、検診地までの道中は、地平線まで続く草原や澄み渡る空など、モンゴルの雄大な自然に終始感動していました。風景とともに過ごした時間や、道中でボロル先生や森先生と歌った「チェリー」や「モンゴル800」は、検診活動と同じかそれ以上に記憶に残る、一生の思い出になったと思います。仲間に恵まれたおかげで、ウランバートルから現地まで片道560kmの道のりも、終わりには名残惜しく感じるほどでした。

今回の経験を通じ、地域や患者さんの状況に応じて最適な方法を模索することの重要性を学びました。今後は、自身の英語の勉強も含め、言語の壁を越えてより良いコミュニケーションが取れるよう努めたいと思います。次回は、モンゴル語で子どもを笑わせられるくらいになって、モンゴルに戻ってきたいです。改めて、この活動に関わってくださった全ての方々に、心から感謝申し上げます。



ウムヌゴビ健診チームの最若手の服部先生(中央)とその診察を見守る額賀先生



ウムヌゴビからの帰路途中の奇岩地帯にて

## 11月モンゴル渡航治療支援事業（首都でのカテーテル治療支援教育活動）

メンバー=小児循環器医師5名(富田理事長、大木寛生先生、阿部忠朗先生、千阪俊行先生、菊地夏望先生)、事務局1名(トーヤ)

スケジュール=11月21日(金)成田→ウランバートル 22日(土)終日カテーテル治療 23日(日)終日心カテーテル治療 24日(月)朝ホテル出発  
ウランバートル→成田にて解散 成果=心エコー検診96人 診断カテーテル1例、治療カテーテル13例、うちPDA4名、肺動脈弁狭窄(以下「PS」) 1名、ASD7名、肺動脈閉鎖1例

活動概況=到着当日の夜に、元横綱日馬富士のビヤムバドルジ氏から夕食の招待を受けました。翌22日(活動初日)富田理事長はモンゴル保健省のJ・チンブレン大臣と面会、次いでNCMCHのセンター長J・オトゴンバートル氏と活動契約手続きなどを行いました。その間、メンバーは朝8時からお集まりいただいた患者さんの心エコースクリーニングを行いました。人数がとても多く、昼過ぎも引き続き心エコースクリーニングを行い、並行してカテをスタートしました。この日のカテは4例、終了したのは10時半過ぎで後片付けをして病院をあとにしたのは12時を回っていました。遅くなったためカンファレンスは行いませんでした。翌23日(活動二日目)、この日は治療カテーテル10例を行いました。今回、初日の一部症例を除き、ほぼモンゴルの医師が主体となって治療を行い、新型コロナ禍以降の教育が順調に進んで来ていることを実感できる回となりました。カテーテルの数が多かったのは、ここしばらく現地でのデバイス供給不足があったため、積み残しとなっていた患者さんが相当数いらしたと、地方から集まった患者さんのうち旅費をかけて首都へたびたび来ることが難しい方がいらっしゃるなど複数要因が重なりました。初日を除いて2日間、夜の食事でも院内へのデリバリーというたいへんタイトな日程でしたが、参加されたみなさまの満足度がとても高い充実した内容となりました。ここしばらく続いていたアンギオの不調も、渡航前の修繕の結果、今回は問題ありませんでした。



カテーテル中のモンゴルの医師ら



TEEを指導する菊池医師(中央)



11月カテーテル治療活動で治療を受けたお子様と日本・モンゴルのスタッフ集合



(上) 2025年11月カテ3班 治療を受けたお子さんから手書きの絵のプレゼント



### <元横綱の日馬富士関ことビヤムバドルジさんの近況>

2025年5月に学校での心エコー検診を実施した「新モンゴル日馬富士学園」の理事長である日馬富士公平氏ですが、帰国後もハートセービングプロジェクトの会員として活躍いただいています。救急車寄贈事業も順調に継続しており、来日の際やモンゴルでのハートセービングプロジェクトの活動のときにはこうしてお互いに情報交換をしています。現在は学園はもちろん、給食で提供するための牛乳をつくるために始めた牧場事業も順調で、牧場でソフトクリームを販売したり、ウランバートル市内のスーパーで牛乳・ヨーグルト・アイスクリームの販売が始まっているそうです。

## 2.教育事業

### 10月モンゴル国立母子保健センター（NCMCH）麻酔科医トンガ医師「日本小児麻酔学会参加プログラム」

NCMCHの麻酔科の医師が教育プログラムの対象となるのは今回が初めてです。NCMCHの麻酔科医ミヤグマー・トンガ医師は2025年10月2日に来日し、翌3日に愛媛大学医学部附属病院で見学と研修を受け、ASDのカテーテル見学をしました。4日に徳島へ移動して、第30回日本小児麻酔学会に参加し、発表を行いました。愛媛大学の藤井園子理事が数ヶ月前から教育プログラム終了まで企画立案から実施までフォローをしていただきました。初めての麻酔科医の来日教育プログラムでしたが大変内容の濃い充実したものとなりました。関係者のみなさま、大変ありがとうございました。



左2点:10月3日(金)愛媛大学医学部附属病院でカテーテル見学を含む教育プログラムを受けました



右2点:10月4日(土)日本小児麻酔学会で「小児心血管造影検査の麻酔における呼吸器合併症:モンゴル国での10年の経験での後ろ向き研究」を発表

### 1月NCMCH小児循環器医バツური医師「日本先天性心疾患インターベンション学会参加プログラム」

2026年1月に川崎市で開催された「第36回日本先天性心疾患インターベンション学会(JCIC)学術集会」への参加・発表とそれともなう教育プログラムとして、NCMCHのバツური医師が1月21日に来日し、24日に学会発表、26日に帰国しました。来日前から発表直前まで連日にわたり富田理事長にマンツーマンで指導をしていただきました。この度の学術集会の会長である上田秀明先生には今回の参加エントリーから帰国後まで多方面にわたりお心遣いをしていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



会場のミューザ川崎にて。  
(左)発表直前の緊張の面持ち(右)発表中のバツური先生

## 3.救急車無償寄贈事業

広島市消防局様から譲与を受けた中古救急車2台は6月27日に横浜港を出港し、7月9日に中国天津新港から列車でモンゴルへ運ばれました。そして2025年9月4日、新モンゴル日馬富士学園前広場で国立第一病院と国立精神医療センターへの救急車受け渡し式が行われました。事業へご協力くださいましたみなさまへこの場を借りて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



(左)出港のための荷積前の救急車  
(中央)9月4日、新モンゴル日馬富士学園の広場で行われた受け渡し式での記念写真  
(右)病院関係者から感謝状を受け取る  
ビャンバドルジ氏(同氏はハートセービングプロジェクトの会員です)



## 4.トピックス

### モンゴル国立母子保健センターのボロルマー医師・ウンドラル医師が定年退職されました

長年にわたりハートセービングプロジェクトの活動をモンゴルのモンゴル国立母子保健センター側から支えて来たボロルマー先生とウンドラル先生が定年退職されました（ウンドラル先生は2025年秋、ボロルマー先生は2026年3月）。この場を借りてその長年の功績に御礼申し上げます。ありがとうございました。人事としましては新たにバトウンドラル先生が小児循環器部長となりました。小児循環器科はこの数年で大幅にメンバーが若返っています。

ボロルマー先生



### モンゴル国立母子保健センターに「心臓血管外科手術室」が2025年 完成・稼働しています

モンゴル国立母子保健センター（NCMCH）内に「心臓血管外科手術室」が2025年春に完成し、この実現に資金と技術の両面から支えていますヨーロッパのルクセンブルクから医療ボランティアチームが訪れて、すでに数例の外科手術を実施したとのこと。ルクセンブルクはNCMCHからの研修受け入れも実施しています。同国は今後も定期的にNCMCHを訪れて医療ボランティア活動を行う予定とのこと。

（右2点）NCMCH内に完成した「心臓血管外科手術室」



### 本年度の活動に際し島根県環境保健公社・どれみクリニック様から心エコー機を無償貸与いただきました

2025年度、羽根田紀幸永世理事長のご紹介で、どれみこどもとアレルギーのクリニック様（島根県）と島根県環境保健公社様（島根県）に心エコー診断機を無償貸与させていただきました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。また毎回、心エコー機のお手配を心がけていただいています。誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。

（右）2025年5月にオープンした「どれみこどもとアレルギーのクリニック」



### 令和7年度もご寄付をありがとうございました

令和7年度にご寄附をいただきました皆様（匿名希望の方を除く）は以下の通りです（アイウエオ順）。

この度もありがとうございました。また、後方に記載のモンゴルの方々にはカッコ内に記載内容の金額不特定の物的寄附を頂戴いたしました。この場をお借りして御礼申し上げます。

阿部 忠朗様／出雲小児科医会様／医療法人伊藤医院様／今田 博巳様／今田 光男様／  
株式会社ウイン・インターナショナル様／江角 法明様／江原 英治様／小野 頼母様／片岡 功一様／片山 望様／  
川合 英一郎様／河田 政明様／岸 清逸様／喜瀬 広亮様／久野 数男様／駿馬 大哲様／郷原 博様／  
小枝 紗知子様／後藤 才示様／佐伯 トシ子様／清水 さえ子様／杉岡 みどり様／  
全国心臓病の子どもを守る会島根県支部様／多田 尚克様／田中 慎一郎様／田中 新亮様／田部 有香様／  
谷口 智子様／田村 真通様／つむらファミリークリニックくみ小児科様／寺田 一也様／中川 直美様／中村 章様／  
西川 望様／西嶋 大美様／社団法人日本医師会様／日本ゴア合同会社様／日本メドトロニック株式会社様／  
橋本 委久子様／服部 苑子様／羽根田 紀幸様／幅田 博樹様／林田 由伽様／  
医療法人ファミリークリニックせぐち小児科様／福代 明正様／藤田 剛様／藤原 紀男様／古瀬医院様／  
医療法人北陽クリニック様／ぽよぽよクリニック様／松井 修一様／松尾 久実代様／松本 孝文様／宮脇 玲子様／  
森田 紘基様／森 雅啓様／森山 整様／矢内 俊様／有限会社ランドスケープ・アーチ様  
日馬富士学園様（4月28日の昼食代）／Baigalmaa様（4月28日の夕食代）／Aubakir様（5月バヤンウルギー検診  
の際の宿泊費用・食事費用一部）／日馬富士公平様（11月21日夕食）／Odonchimeg様（11月22日夕食デリバリー）  
／Tserenbaatar様（11月23日夕食デリバリー）

## 議案 2 令和 8 年度活動計算書報告資料

### 令和 7 年度と令和 8 年度の会計財産目録の比較

科目	令和6年度	令和7年度
現金	101,270円	37,490円
貯蔵品(切手)	3,557円	3,657円
普通預金 三菱UFJ銀行	9,447,587円	5,587,486円
普通預金 ゆうちょ銀行	6,803,664円	9,199,400円
普通預金 三井住友銀行	1,568,137円	1,096円
普通預金 リそな銀行	361,727円	1,971円
郵便振替口座	548,880円	1,080,280円
未収金	-	1,464,122円
合計	18,834,822円	17,375,502円

正味財産の増減および当期経常増減額はマイナス1,459,320円でした。

### 令和 7 年度の事業計画金額と実際の収支の比較

		令和7年度事業計画金額	令和7年度事業報告金額	
収入の部	会費収入	300,000円	468,000円	
	寄付金収入	7,800,000円	7,364,444円	
	助成金等	-	-	
	受取利息	-	16,878円	
	その他(未収金・立替金)	-	1,464,122円	
	小計	8,100,000円	9,313,444円	
	モンゴルでの物的サービスの受け入れ	200,000円	422,858円	
	日本での物的サービスの受け入れ	1,100,000円	205,600円	
	物的サービスの受入合計	1,300,000円	628,458円	
収入合計		9,400,000円	9,941,902円	
支出の部	事業費	現地で治療支援する活動	3,640,000円	3,699,560円
		日本で支援する活動	4,140,000円	4,095,918円
		教育事業(国外)	-	177,351円
		教育事業(国内)	480,000円	183,903円
		来日治療支援事活動	-	-
		救急車輸送活動	900,000円	885,170円
		日本で広報する活動	220,000円	335,566円
	事業費合計	9,380,000円	9,377,468円	
管理費合計		2,100,000円	2,023,589円	
支出合計		11,480,000円	11,401,057円	

## 令和7年度 収入の内訳

会費	468,000円
寄付金	7,364,444円
受取助成金	-
施設等評価益	628,458円
受取利息・未収金等	1,481,000円
合計	9,941,902円

## 令和6年度 施設等受入評価益

施設等受入評価益とは、「無償又は著しく安い価格での施設の提供等物的サービス」のことです。以下の記載分はそのうち「客観的裏付けのある金額計算」されたものです。

なお、施設等受入評価益記載の寄付につきましては、原則、所得税・法人税控除の対象とはなりません。また下記のほかにウランバートル市様、愛媛大学様から多大なサポートがありましたことを申し添えます。

提供者名	換算金額	内容
八代高砂浦五郎 様	55,000円	大相撲カレンダー50本
八代高砂浦五郎 様	33,000円	相撲番付600枚
八代高砂浦五郎 様	51,600円	高砂部屋新聞600枚
千代翔馬富士雄 様	33,000円	大相撲カレンダー30本
千代翔馬富士雄 様	33,000円	相撲番付600枚
日本国内 物的サービスの受入合計	205,600円	
バヤンゴルホテル 様	117,797円	定価の25%OFF
ウランバートルホテル 様	305,061円	定価の50%OFF
モンゴル 物的サービスの受入合計	422,858円	
国内外合計	628,458円	

※バヤンゴルホテルは一泊定価の25%OFFで50泊利用

※ウランバートルホテルは一泊定価の50%OFFで23泊利用。

## 令和7年度 使途等が制約された寄付金等の内訳

「使途等が制約された寄付金」とは、使い道について指定を受けた寄付金のことを指します。

令和6年度末時点での「使途等が制約された寄付金」は以下の通りです

社名	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	目的
株式会社ワールドサービス	500,000円	0円	500,000円	0円	救急車輸送事業費用
日馬富士公平	356,000円	0円	356,000円	0円	救急車輸送事業費用
株式会社ウィン・インターナショナル	0円	50,000円	50,000円	0円	令和7年度モンゴル治療支援活動費用
日本メドトロニック株式会社	0円	500,000円	500,000円	0円	令和7年度モンゴル治療支援活動費用
日本ゴア合同会社	0円	400,000円	400,000円	0円	令和7年度モンゴル治療支援活動費用
エドワーズライフサイエンス社	1,564,600円	0円	1,564,600円	0円	令和7年度モンゴル地方検診費用
合計	2,420,600円	950,000円	3,370,600円	0円	

## 令和7年度 事業別経費

令和7年3月1日から令和8年2月28日まで(施設等受入評価額除く)

事業	内容	日時	実施場所	従事者	受益者	支出額
国内支援事業	モンゴルでの治療を支援する事業 にかかる業務	2025.3.1～ 2026.2.28	東京・島根・広島・愛媛・秋田 など	50人	3400人	4,095,918円
	日本での教育プログラムの実施(研修 プログラムとオンラインレクチャー)	2025.4.1～ 2026.2.10	東京・愛媛・徳 島など	80人	3400人	183,903円
	日本の中古救急車をモンゴルの病院へ 寄贈する事業にかかる業務	2025.3.1～ 2025.9.10	東京・広島・群 馬・横浜など	40人	500人	885,170円
国外支援事業	モンゴルでの治療を支援する事業 にかかる業務	2025.3.1～ 2026.2.28	ウランバートル ほか	240人	3400人	3,276,702円
	日本での教育プログラムの実施(研修 プログラムとオンラインレクチャー)	2025.6.10～ 2026.2.10	ウランバートル	10人	3400人	177,351円
	日本の中古救急車をモンゴルの病院へ 寄贈する事業にかかる業務	2025.6.1～ 2025.9.30	ウランバートル	60人	500人	-
国内広報事業	広報ツール・資料作成業務 (施設等受入評価益含む)	2025.3.1～ 2026.2.28	東京	8人	300人	216,390円
	広報ツールの配布	2025.3.1～ 2026.2.28	東京	8人	300人	119,176円
	WEBサイト管理業務	2025.3.1～ 2026.2.28	東京	8人	300人	-

現地 事業費総額	3,454,053円
国内 渡航治療支援事業 事業費総額	4,095,918円
国内 教育事業 事業費総額	183,903円
国内 救急車寄贈事業 事業費総額	885,170円
国内 広報事業 事業費総額	129,966円
管理費総額	2,023,589円
<b>合計</b>	<b>10,772,599円</b>

※上記金額には物的寄付は含まれておりません

## 令和8年度事業計画

令和8年度は、今後のモンゴルでの小児循環器治療体制を意識しながら、ハートセービングプロジェクトがそれをサポートしていくべく活動を進めて参ります。モンゴル渡航体制は昨年同様にハートセービングプロジェクトの次世代育成を考え、リーダー、二番手、若手で構成されるチームを年3回短期派遣し、モンゴル国立母子保健センターで活動を行います。また帰国後には参加者全員出席のZOOMミーティングを行うこととします。

現地カテーテル治療活動では、現地の医師、看護師、麻酔科医を含めて事前のカンファレンスを着実にを行い、治療後は現状と同様のカンファレンスを行います。これによりひとつひとつの治療には時間をかけることとなりますが、めざすべきチーム医療体制の実現には不可欠であることを母子センターにも理解を求めて参ります。

令和8年度のモンゴル渡航治療活動スケジュールは、5月2日（土）～5月7日（木）のカテーテル治療第1班とドルノド県地方検診班の合同チーム、9月19日（土）～9月24日（木）のカテーテル治療第2班とザワハン県地方検診の合同チーム、10月30日（金）～11月3日（火）のカテーテル治療第3班を予定しています。地方検診についてはモンゴル国内で資金的にサポートをしていただける企業様・個人様のご協力を仰ぐことを目指します。

日本に招聘して行う教育プログラムの予定がございませんが、モンゴルへ渡航の際には現地での現場教育をこれまでに増して実施する予定です。

救急車輸送事業は広島市が提供する救急車2台を本年度中に輸送する予定です。

なお、3月の初旬に発生した中東情勢により本年度予定の具体的実施について流動的な変更が発生する可能性がありますので、その際にはご理解のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

### 2026年度 ハートセービングプロジェクト おもな予定表

4月12日（土）12時～	社員総会（ZOOM）
5月2日（土）～5月7日（木）	カテ1班・地方検診班（ドルノド県）
9月19日（土）～9月24日（木）	カテ2班・地方検診班（ザワハン県）
10月30日（金）～11月3日（火）	カテ3班
2027年2月	期末決算
2027年4月	社員総会にて次期の理事・理事長選出

## 令和8年度活動予算

令和7年度 繰越額		17,375,042円
令和8年度 会費収入見込額		430,000円
令和8年度寄付金見込額(国内)		8,600,000円
令和8年度 物的サービス見込額(国内)		205,600円
令和8年度 物的サービス見込額(国外)		1,450,000円
令和8年度 収入見込額合計		10,685,600円
国内支援事業 384万円	(1) モンゴル渡航治療事業エアチケット含む交通費 渡航人員のべ34人	3,400,000円
	(2) 国際通信	200,000円
	(3) 消耗品・事務用品・エコー保険ほか	240,000円
現地支援事業 (モンゴル) 455万円	(1) 現地での物的サービス(宿泊優待等)	450,000円
	(2) 地方検診2回の現地宿泊交通費(現地現物寄付含む)	1,900,000円
	(3) モンゴル国立母子保健センターでの治療活動で日本 が負担するデバイス等にかかる費用	240,000円
	(4) 現地ボランティア日当	150,000円
	(5) 医師免許取得等事務手数料および関税	180,000円
	(6) 車両関係費(ガソリン・レンタカー費用)	380,000円
	(7) 出張旅費(食事・水など)	900,000円
	(8) その他 通信費・事務用品・交際費・消耗品ほか	350,000円
教育事業 (国内)	(1) 旅費交通宿泊費(本年は予定なし)	-
	(2) 消耗品・事務用品ほか	-
広報事業	ホームページ・印刷物作成・郵送料(物的寄付含む)	355,600円
救急車寄贈事業	救急車の輸送費	1,200,000円
管理費	令和7年度同様の内容として	2,024,000円
令和8年度 支出見込額合計		11,969,600円
次期繰越予定額		16,091,042円

事務局からみなさまへ  
住所とメールアドレス変更はお知らせください

事務局から活動に関するご案内を差し上げますので  
ご住所とメールアドレス変更の際はご一報ください

メールアドレス [npo@heartssavingproject.com](mailto:npo@heartssavingproject.com)